

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	18106009	研究期間	平成18年度～平成22年度
研究課題名	感性バイオセンサの開発	研究代表者 (所属・職)	都甲 潔 (九州大学・システム情報 科学研究所・教授)

【平成21年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、味と匂いを統合した感性バイオセンサの実現という、挑戦的だが夢のある、かつ社会的に波及効果の大きい内容である。研究開発対象項目により若干の進捗状況の差があるが、研究代表者らのこれまでの膨大な基礎研究の成果と実績をベースに、用意周到な計画と準備により、全体として良好な研究の進展が見られ、今後の研究推進上の問題点も特に見られない。各研究者が有機的に機能しており、研究は極めて効率的に進められているように見受けられる。また、これまでの研究成果が多数公表されており、現時点では期待された成果が得られている。今後の研究計画も妥当であることから、研究期間の終了までに研究目的の達成が見込まれる。

【平成23年度 検証結果】

検証結果	<p>感性バイオセンサの開発における2つの柱である味覚センサと匂いコードセンサのうち味覚センサに関しては、当初の研究目標であるカフェイン（非荷電物質）に対する受容膜および小型化味覚センサの開発がなされており、研究進捗評価結果どおりの研究成果が達成されたこれに対して、匂いコードセンサに関しては、研究進捗評価以降の成果は携帯型匂い測定装置の試作のみであり、一定の成果は得られているが当初目標としていた「匂いコードセンサ」が開発されたとは言いがたい。</p>
B	